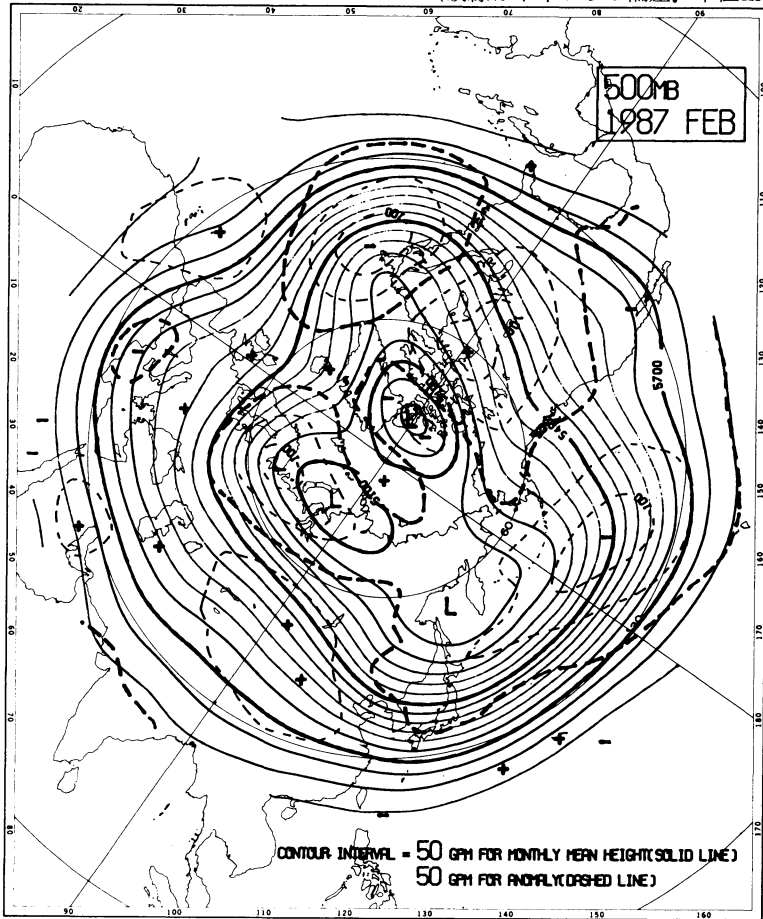


## 月平均 500mb 天気図. 1987 年 2 月

(破線は平年からの偏差, 単位m)



## 暖冬パターンに僅かの変化

2月の月平均 500mb 天気図を極東域に注目して眺めると、カムチャッカ半島付近から東部太平洋、ユーラシア大陸東岸にトラフが延び、負偏差域が日本の南岸まで達している。また、30°N以南の西部太平洋域では、かなり弱くなったものの依然正偏差が続いている。このユーラシア大陸東岸のトラフは、昨年12月や今年1月に比べ明瞭になっている。これは、月末に日本付近を覆った大きなトラフによるもので、強い寒気の流入をもたらした。ちなみに、高温傾向の続いた第5半旬までの25日平均図では、12、1月同様のパターンであった。このため、2月の日本の気温は、月平均では西日本・九州で約1°C高かったほか、全国的に平年を上

回ったが、前半は高く、月末には冷え込むなど、寒暖の差が大きかった。

他の地域に目を移すと、90°Wと90°Eの極渦・副極渦と、これらの渦から延びる西部大西洋、北ヨーロッパのトラフが目につく。特に、西部大西洋のトラフは顕著で、北アメリカ大陸東岸地方は低温に見舞われた。また、北ヨーロッパのトラフは、中高緯度で顕著で、北ヨーロッパに寒気をもたらした。地中海付近には別のトラフがあり、南ヨーロッパでは平年を上回る降水が観測された。

北アメリカ大陸中西部や中央アジアでは、それぞれ2つのトラフにはさまれ、広い範囲で正偏差に覆われ高温であった。(気象庁長期予報課 渡辺典昭)